



「シンプル」→「伝わる・わかる」→「つながる」→「安心」

# 学校だより

令和 5年 12月 1日  
東京都立羽村特別支援学校長  
外山 裕介

## 羽ばたき祭、ありがとうございます

羽ばたき祭開催について御協力ありがとうございます。舞台発表の御参観もよろしくお願いいたします。学習成果発表の喜びやプレッシャーは、また一つ子供たちを成長させてくれるはずです。

## いよいよ開校50周年

さて、今月は開校50周年記念式典を迎えることとなります。この行事は、卒業式同様に行われます。50年という時代の流れを振り返り、この日を大きな節目として、その先の未来に向かって、皆で決意を新たにしていける機会となりますので、いつもよりもっとたくさんの方々がお祝いに駆けつけてくれます。

東京都議会議員の皆様や、通学区域各市町の教育委員会教育長の皆様、近隣校の校長やPTA会長の皆様、地域の皆様など、普段お世話になって

いる方々に感謝の気持ちを表す場でもあります。

保護者の皆様には受付や接待、誘導、道案内など、様々な面で支えていただくこととなります。皆様の御協力があってこそ、式典を挙行できますこと、心より感謝いたします。

## コロナ禍というトンネルの先に

思えば、私が校長として初めて周年記念式典を経験したのは令和元年の秋、前任の清瀬特別支援学校創立40周年記念式典でした。東京都としても、コロナ禍前の最後の周年行事でした。

さて、今年度また、皆で集まって羽村特別支援学校開校50周年記念式典を行うことができるようになりました。まさに4年ぶりです。コロナ禍という長いトンネルの入り口と出口で周年記念式典を迎えることとなったことには、不思議な縁に似たものを感じます。

久しぶりの大きな式典を間近に控え、忘れていないか確認の毎日です。



学校ができる前(1960年代)

出典:国土地理院ウェブサイトより切り抜き  
<https://maps.gis.jp/#17/35.768213/139.331360/&base=std&=std#7/Cart.dtl10&blend=0&dsp=11&cd=art.dtl10&vs=c1g1Dh0-00.00z00s0m0f1&d+m>



旧校舎

## スタートした頃の本校は

本校は昭和49年4月に東京都の障害のある子供たち全員就学の方針により、第11番目の都立養護学校として誕生しました。羽村東小学校の2教室を借り、小学部第一学

年で2学級編制でスタートし、それまで学校教育への適応が困難と考えられていた児童・生徒にも就学の道が開かれました。それまでの指導法や経験が通用しない状況の中、教員たちは手探り、体当たりで教育活動を進めていったそうです。「どのような授業をしたらよいのか。」「どのような活動をしたらよいのか。」悩んだ末に、重度障害児を受け入れている施設の職員に教えを乞い、研修会を開くこともあったそうです。

児童・生徒数20名で始まった3年後には約200名となったことからすると、近隣施設や在宅で就学ができていなかった児童・生徒の受け入れなど、開校当初の教職員の皆様には並々ならぬ努力があったことが偲べれます。



現在の校舎

出典:国土地理院ウェブサイトより切り抜き 加工

<https://maps.gis.jp/#17/35.768213/139.331360/&base=std&=std#7/Cart.dtl10&blend=0&dsp=11&cd=seamlessphoto&vs=c1g1Dh0-00.00z00s0m0f1&d+m>

## 「羽村特支のむかし話」

羽村特支のむかし話は3月学校だよりまで掲載されます。今回は、11月【紙すき その1】の続きです。

## 12月【紙すき その2】

羽村和紙の原料になる桑の枝の入手方法です。

毎年、高等部紙工班の生徒が、青梅市谷野町のおじいさん、おばあさんの家に桑の枝をもらいに行きました。朝、羽村駅に集合し、電車で河辺駅に行って、路線バスで向かいます。あらかじめ葉っぱを取っておいてくださった桑の枝をのこぎりや枝切りばさみで適当な大きさに切り揃え、借りた2~3トトラックが一杯になるまで積み込みます。持参したお弁当を食べ、帰路は河辺駅で解散です。

一日掛かりで集めた桑の枝は、学校で、味わい深い羽村和紙に生まれ変わったのでした。



(右上に続く)